

NPO法人

World Theater Project

2017年度年次報告書



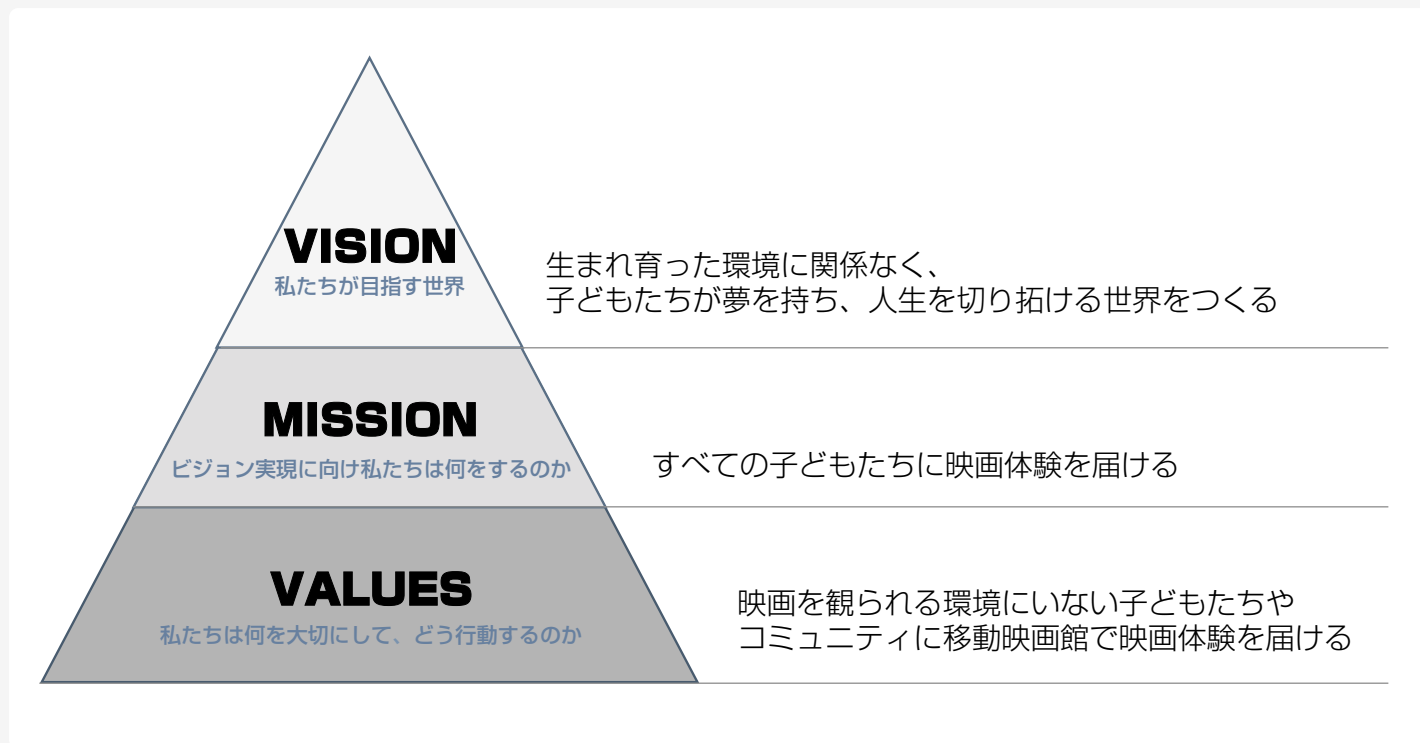
World Theater Project

World Theater Projectは、
映画を観られる環境にいない子どもたちへ、
移動映画館で映画を届ける活動をしています。

2017年度、クレイアニメ『映画の妖精 フィルとムー』を製作し、
これまで移動映画館事業の活動拠点としていたカンボジア以外の国の
子どもたちにも映画を届けられるようになりました。

これまでに5万人を超える子どもたちに映画を届けてきました。(2018年3月現在)

■私たちの活動について



なぜ映画なの？

途上国の農村部に暮らす子どもたちに将来の夢をきくと、答えられないか、「先生」や「医者」という回答がほとんどです。

知らない夢は、思い描くことができません。

映画は生きていく上で絶対に必要なものではありませんが、時に生きる目的や、心への栄養を与えてくれるものです。

映画と子どもにまつわる話

あるカンボジア人の青年は、6歳の時に映画を観たそうです。映画の中には、貧しくても勉学に励み、やがて成功する主人公の姿がありました。

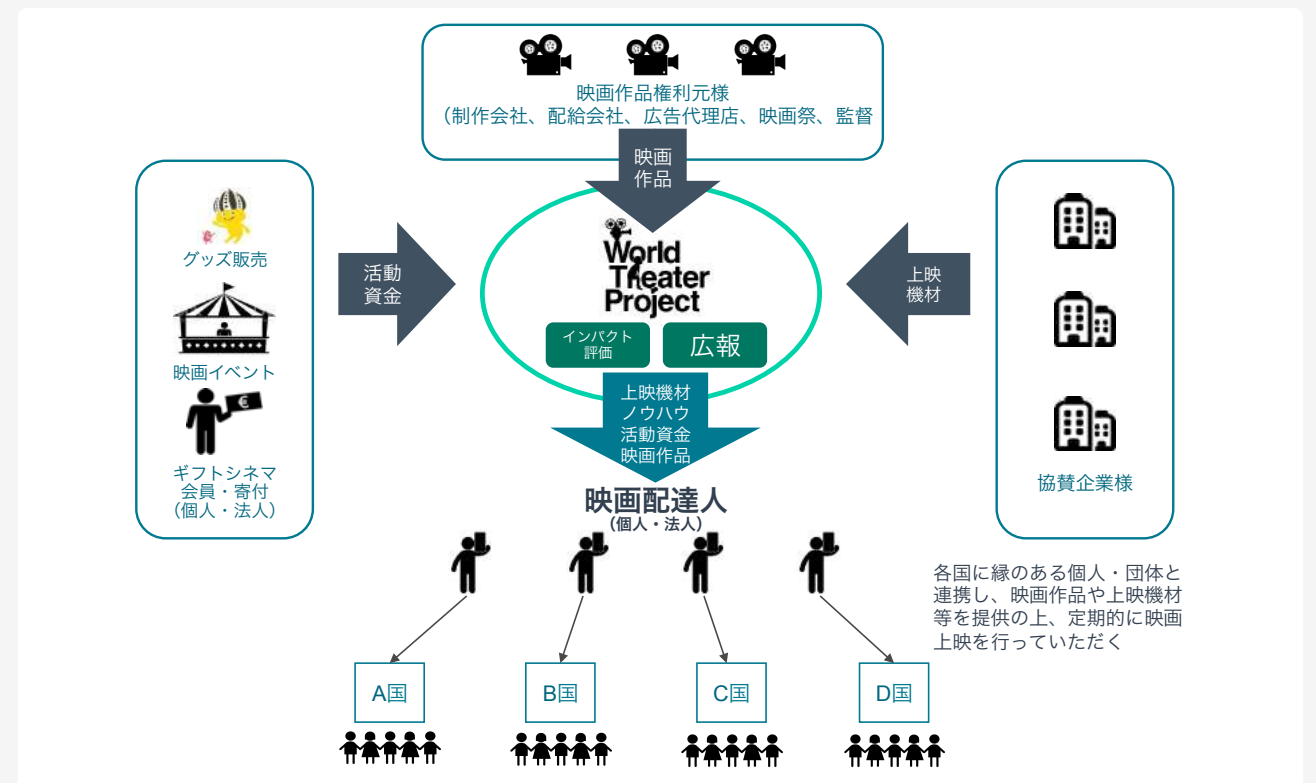
「自分もこの映画の主人公のようになりたい」
彼は一生懸命勉強して、現在日本の企業で活躍しています。

私たちは、映画を観た子どもたちに、この青年のような夢の種が宿ることを願っています。



■目指したい姿

2017年度、カンボジア以外の国の子どもたちにも移動映画館で映画を届けることができ、団体の転換期を迎えました。今後は世界中の映画を観ることができない環境に置かれる子どもたちに映画を届けることで、私たちのビジョンが実現した社会を目指します。



ご支援くださった皆様へ

2017年度は自分の想像を遥かに超えるスピードで活動が広がっていった年でした。

カンボジアでは映画配達人たちが安定して映画上映とワークショップを行っています。

日本では北陸支部も立ち上がり、活動資金を集めるためのイベントを開催。また、大学生・高校生たちがWTP YouthというWTPを支える団体を立上げ、彼らの情熱が周りを巻き込んでいっています。

多くの方のお力で、世界中の子どもたちに届けることができる作品『映画の妖精 フィルとムー』ができてから、「世界中の子どもたちに映画を」という想いが、夢物語ではなくなりました。

スクリーンに上映機材、そして映画作品があれば、どこでも映画を上映することができますが、今までは映画作品だけがない状態でした。しかし、それができたのです。

各国を訪れる方、在住してらっしゃる方、個人団体問わず、上映をしたいというお声をいただきました。

本作を皮切りに、本来であれば映画と出会う可能性のない環境に暮らす子どもたちに上映できる映画が増えれば良いなと思います。

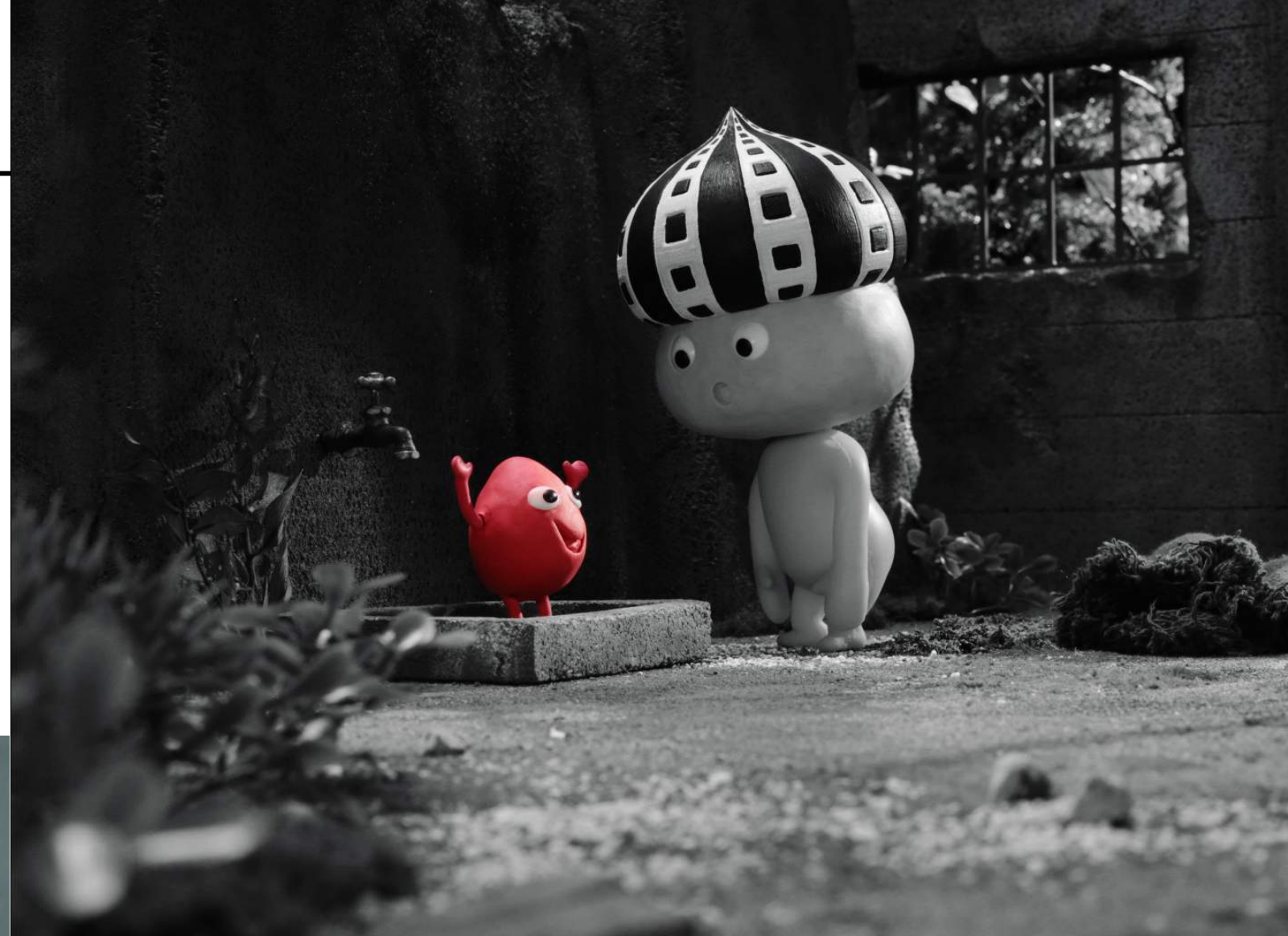
皆様のおかげでここまで進んでくることができました。

また、私的なことではありますが、WTPに非常に理解ある方と結婚し、より活動に邁進できるようになりました。

これからも進み広げてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



World Theater Project
代表理事 教来石小織
(きょうらいせき・さおり)



■目次

—はじめに—	—各支部報告—
World Theater Projectとは 01	関西支部 28
ご支援くださった皆様へ 03	北陸支部 29
目次 04	—その他の事業・活動報告—
2017年度のWorld Theater Project 05	企業・団体様とのコラボレーション事業 31
—各事業報告—	海外へのプロモーション活動 33
カンボジア事業 07	2017年度メディア掲載一覧 33
スタディツアー事業 13	ボランティア・プロボノメンバー募集 34
Filmeet(フィルミート)事業 17	ご協力いただいた企業・団体様 35
『映画の妖精 フィルとムー』の製作 21	ギフトシネマ会員の皆様 36
World Theater Project Youthの活動 25	2017年度財務会計報告 37

■2017年度のWorld Theater Project

2017年度の活動の広がりをハイライトとしてまとめました。
2017年度は、団体名を「特定非営利活動法人World Theater Project」に変更し、カンボジアのみならず、様々な国の子どもたちに映画を届けることができた1年でした。



当法人の正式名称を「特定非営利活動法人CATiC」から「特定非営利活動法人World Theater Project」に変更



WOWOW「映画工房」×World Theater Project 526名のご支援者のご協力により、『映画の妖精 フィルとムー』が完成



累計上映人数が5万人を突破
カンボジア拠点はローカライズが完了し、カンボジア現地スタッフが運営中



グローバルフェスタ2017メインステージを企画・実施
「映像×国際協力～映画の力が途上国にもたらすもの～」



東京本部、関西支部に続く、国内3つ目の拠点として、石川県金沢市を中心に活動する北陸支部が発足



映画視聴後のワークショップの質と安定性向上のため、プロボノメンバーがカンボジアに渡航



英語音声(日本語字幕付)のプロモーションアニメが完成
イギリス在住のプロアニメーターがボランティアで制作



『映画の妖精 フィルとムー』が完成し、カンボジア以外の国の子どもたちにも移動映画館を



World Theater Projectの活動を国内外に広めていく、学生組織「World Theater Project Youth」が発足



キリンビバレッジ株式会社×World Theater Project WTP支援自動販売機を協働制作
売り上げの一部がWTPへの支援金に



“Buy One, Give One Cinema”
映画の妖精フィルとムーが可愛いギフトアイテムに



ファッションブランドJAMMIN×World Theater Project 1週間限定でチャリティファッショングッズを販売
トータル305アイテム、179,760円のチャリティーに

カンボジア事業



■ 移動映画館の流れ

1

スケジュール作成

シムリアップ州とバタンバン州のカンボジア人スタッフが、それぞれ上映スケジュールを作成します。学校の休校などの関係で、季節によって上映頻度は異なりますが、平均して週2回のペースで上映を行っています。

学校へのアポイントメント

広場や寺院など、様々な場所で上映していますが、一番多い上映場所は学校です。授業の関係もあるため、先生に直接会いに行きスケジュールの調整をすることもあれば、電話で決めることもあります。

2

上映地へ出発

映画配達人は、普段はトゥクトゥク(三輪タクシー)の運転手をしているため、トゥクトゥクで上映機材(スクリーン、プロジェクター、発電機など)を運びます。

上映の準備

スクリーンの組み立て、発電機やプロジェクターの準備、教室の準備(窓を閉めて教室を暗くするなど)を行います。



映画配達人の挨拶

上映前にWTPの活動や上映中の注意点などを話します。

上映

いよいよ上映開始です。発電機が止まるなどの上映トラブルが起きることがあるので、映画配達人は上映の間、教室の中などで子どもたちの様子を見守ります。



ワークショップ

上映前後には、映画にまつわるワークショップを行うこともあります。例えば、主人公がフルート奏者を目指す『ハルのふえ』を観終わった後には、フルートの演奏体験を行いました。

今日の振り返り

ワークショップまで終わると子どもたちに今日の感想や学んだことを発表してもらいます。



3

上映の報告

上映後は、上映校、映画を観た子どもたちの人数や感想などを、日本のスタッフに随時報告します。

■現地の上映体制

2017年3月より完全にローカライズ※し、2017年度はカンボジア人スタッフのみで映画配達事業を行いました。カンボジアリーダー・サムナンのもと、日本のスタッフと連携を取りながら運営しています。



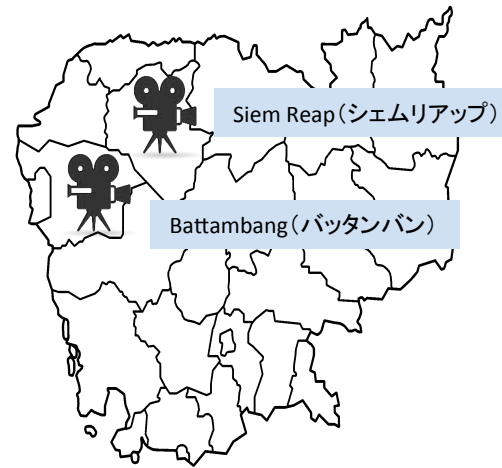
カンボジアリーダー

サムナン

現地のマネジャーとしてスタッフの管理や日本との調整をしています。日本語が堪能で仕事が正確なので心強いです。

※ローカライズとは…
日本人駐在員を置かず、カンボジア人スタッフのみでカンボジアでの映画配達事業を行うこと。

▼カンボジア拠点図(2拠点)



シムリアップ州リーダー



ナット

シムリアップ州で学校との交渉や上映の運営をしています。以前は学校の先生だったため、子どもたちをまとめたり、ワークショップを進めるのが上手です。

バタンバン州リーダー



サロン

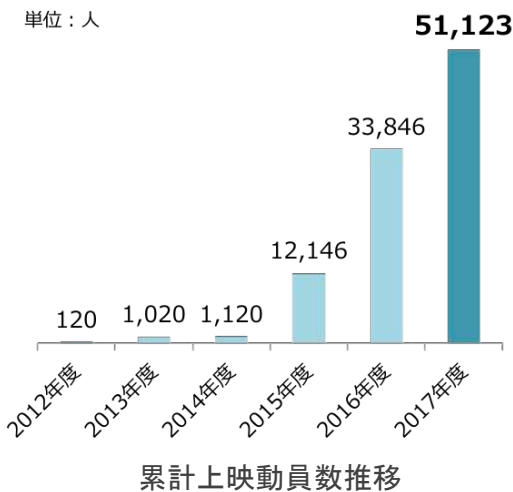
バタンバン州で学校との交渉や上映の運営をしています。普段はトゥクトゥクドライバーとして仕事をしており、観光のお客さんを上映に連れて行って寄付を集めたりと、営業が上手です。

■2017年度の上映実績

2017年度の上映動員数: 15,827人

▼累計上映動員数

51,123人



■上映箇所の広がり

メイン拠点のバタンバン州、シムリアップ州だけではなく、トゥブンクモン州、コンポンチャム州、コンポンスピュー州など、他の州でも映画配達人たちが出張して上映を行いました。

■ワークショップについて

WTPでは、映画を観るだけでなく、視聴後にワークショップを開催し、子どもたちの将来の可能性を広げる活動を行っています。本年度は、映画視聴後のワークショップの質と安定性の向上、ワークショップの新たな可能性の探索をテーマに活動を行いました。

▼ワークショップの質と安定性の向上

昨年までは、映画配達人がそれぞれのやり方でワークショップを行っており、ワークショップの質向上が課題となっていました。そこで2017年8月にWTPプロボノメンバーである株式会社ジェイフィールの重光直之(しげみつ・なおゆき)と山中健司(やまなか・けんじ)の2名が渡航。映画配達人もシムリアップに集まり、ワークショップの進め方について議論を実施しました。



日本人スタッフが考えた内容をただ展開するのではなく、映画配達人と一緒にワークショップの内容を考えることで、子どもたちが楽しみながら、積極的に参加できる内容に改善することができました。学校の先生を巻き込みながら、グループワークの工夫やゲーム性を持たせることで、従来はあまり出てこなかった「自分たちが知っている職業」が50個も出てくるようになり、映画配達人も驚いていました。まだ出てくる職業の幅は限られていますが、今後改良を加えることでさらに子どもたちの可能性を広げることができると感じています。



また、今回実施したワークショップの進め方マニュアルを作成し、クメール語に翻訳。映画配達人が安定してワークショップを開催できる仕組みづくりも行いました。

▼ワークショップの新たな可能性の探索

ワークショップの更なる可能性を探るため、2017年12月にWTPプロボノメンバーの内田英恵(うちだ・はなえ)が渡航。バタンバン州で新たなワークショップを開催しました。



今回は、「映像を観る」のではなく、子どもたちが実際に「映像をつくる」機会を設けました。事前に、映像づくりの面白さを伝えるためのショートムービーをWTPで制作。それを現地の子どもたちと一緒に視聴して映像づくりをイメージ。そのあと、子どもたちが実際にカメラを使って映像を撮り、音楽をつけてショートムービーを制作しました。カメラを持って撮影する子どもたちは、すごく新鮮。楽しそうに踊る子ども、犬と一緒に踊る子ども、村の風景など、子どもたちならではの素敵な映像ができました。

このワークショップを通じて、モノをつくる楽しさ、つくった達成感や自信、そんな内なる力が子どもたちに芽生える可能性を感じました。まだまだトライアルの段階ですが、改良を加えて、よりよいワークショップに進化させていきたいと思っています。



■上映作品のご紹介



“HAL'S FLUTE”
©Takashi Yanase /TMS
All Rights Reserved

『ハルのふえ』
(株式会社トムス・エンタテインメント)

アンパンマンシリーズを手掛けたやなせたかし氏の絵本が原作となった、タヌキと人間の親子の絆を描いた感動のアニメーション作品。
人間の赤ちゃん・パルを拾ったタヌキのハルは、人間の姿に化けながら、パルを大切に育てていく。成長したパルは、音楽家に笛の才能を認められ、ある決心をする。



権利元 株式会社白組

『劇場版 ゆうとくんがいく』
(株式会社白組)

サッカー選手・長友佑都さんをモデルにした主人公・ゆうとくんが、サッカーを通して成長していく姿を描いた短編アニメーション作品の劇場版。
世界で活躍するゆうとくんの前に、強大なライバルが出現。さらなる成長を目指し、“レジェンド”と呼ばれる伝説のサッカー選手に出会う旅が始まる。

『ニルスのふしぎな旅』
(株式会社学研ホールディングス)

スウェーデンの児童文学が原作となったアニメーション作品の劇場版。
数々のヒット作を手掛ける押井守氏が演出を担当し、主人公の冒険の様子がいきいきと描かれている。主人公のニルスはある日、妖精を怒らせ、身体を小さくされてしまう。ニルスは、動物たちと空飛ぶ冒険を始め、友情を深めていく。



権利元
株式会社学研ホールディングス



“THE ADVENTURE OF PANDA AND FRIENDS”
© TMS All Rights Reserved

『パンダコパンダ／パンダコパンダ 雨ふりサーカス』
(株式会社トムス・エンタテインメント)

スタジオジブリの大傑作『となりのトトロ』の原型と評された、宮崎駿脚本・高畑勲監督のアニメーション作品。
竹林の中の祖母の家で、一人留守番をする元気いっぱいの少女、ミミ子。そこに突如現れた“パンダ親子”とミミ子の愉快な共同生活が始まる。この不思議なパンダはどこから来たのか、そしてささやかな三人の暮らしは、一体どうなるのだろうか。

『シアター・プノンペン』
(Hanuman Films)

ソト・クオーリカー監督作品。第27回東京国際映画祭「アジアの未来」部門で国際交流基金アジアセンター特別賞を受賞。
主人公・ソボン、かつて祖母が出演していたという伝説の映画を観るため、隠された歴史を探る。そこには、ポル・ポト政権下にあったカンボジアの激動の時代と、祖母の秘密の青春があった。カンボジアと映画、二つの特別な過去が明らかにされる。



権利元
Hanuman Films



権利元
NPO法人World Theater Project

『映画の妖精 フィルとムー』
(NPO法人World Theater Project)

廃墟でひとりぼっちで暮らしているフィル。その表情はどこか寂しげである。そんなフィルの前に突然映写機が現れ、カタカタと鳴るフィルムロールの音とともに古いフィルム映像が映し出される。突如現れたムーによってスクリーンのなかに誘われるフィル。フィルとムーの旅が始まる。
世界の子どもたちのためにつくられた短編クリエイティブアニメーション。

■映画を観た子どもたちの将来の夢

▼映画を観た後にインタビュー！皆さんの将来の夢はなんですか？

以前は「先生」や「医者」と答える子どもたちがほとんどでしたが、最近では様々な職業を将来の夢として答えてくれるようになりました。



リエムリアップリアちゃん 11歳
将来は科学者になりたい！



アソムイちゃん 11歳
将来はシェフになりたい！



チャンペターくん 11歳
将来はパイロットになりたい！



ソパリちゃん 11歳
将来は、エンジニアになりたい！



スーくん 12歳
将来は、警察になりたい！

■2017年度の振り返りと2018年度について

▼2017年度振り返り

ローカライズ後、初のカンボジア人だけの現地体制構築の年度

2017年度は日本人駐在員なしのカンボジア人だけの体制となって初めての年でした。初めは不安なところもありましたが、映画配達人たちがこの仕事に誇りを持って取り組んでいることもあり、今までと変わらずに上映活動が行われる体制を作ることができました。
また、メイン拠点のシェムリアップ州とバットアンバン州以外の地域(コンポンチャム州、トゥブンクモン州、コンポンスプー州)でも、配達人たちが出張に行き、上映を行いました。これらの上映は他団体と協力して行いました。他団体との協力も徐々に広がっています。それらの活動の結果、2017年度、映画を届けた子どもたちの数は15,827人にのぼり、累計上映動員数は51,123人となりました。



▼2018年度について

他団体とのコラボレーションや発展的取り組みを増やす

現在は、カンボジア人だけの体制で安定的に映画配達が行われるようになり、上映人数も増やすことができています。来年度は他の州に出張上映をしたり、他の団体とコラボレーションして様々なワークショップを行うなど、上映人数以外のところに目を向けた取り組みを増やしていきたいと考えています。
実際に2017年度末には、TBSのCSR活動の一つであるDigiCon6 ASIAとコラボし、「World Theater Project+DigiCon6 ASIA 特別上映会」と称した上映会とワークショップをシェムリアップで開催しました。



スタディツアー事業



PEACE IN TOUR × World Theater Project

■ 全体報告

▼スタディツアーとは
スタディツアーとは、観光を目的としたツアーと違い、“学習を目的としたツアー”です。旅行会社様と共に、弊団体の活動をいかした学びのあるツアーの企画・運営を行っています。



▼WTPのスタディツアー

私たちのビジョンは「生まれ育った環境に関係なく、子どもたちが夢を持ち、人生を切り拓ける世界をつくる」です。豊かな日本で生まれ育った私たちだからこそ、気づけないことがたくさんあると思います。WTPのスタディツアーでは、日本では考えもなかったことに思いをめぐらせ、参加者の人生を豊かにしてくれるものを一つでも多く持ち帰っていただくことを目指しています。

▼スタディツアー実績

本年度は夏の1回の開催となりました。参加者は過去最高人数の14名です。高校生・大学生から社会人まで幅広い世代の方に参加いただきました。

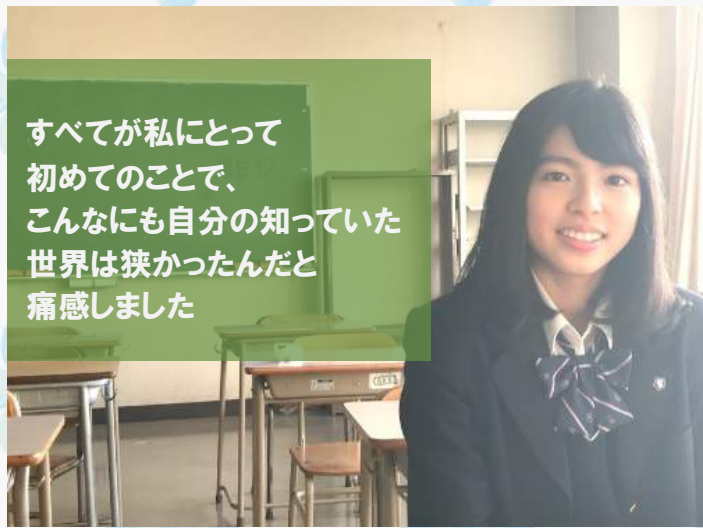
	16年GWツアー	16年夏季ツアー	17年春季ツアー	17年夏季ツアー
旅行会社様				
参加人数	10名	4名	9名	14名

▼スタディツアーの内容

カンボジアの観光、村の暮らし体験、学校の子どもたちとの交流、上映体験など、スタディツアーならではの様々な体験ができるツアーになっています。多様なバックグラウンドを持つ仲間ができるのも魅力の一つです。



■参加者 小林なつみさんの声（ツアー参加当時：高校1年生）



すべてが私にとって初めてのことで、こんなにも自分の知っていた世界は狭かったんだと痛感しました

1)参加のきっかけ “ゆめのはいたつにん”

平凡な高校生であり、ボランティアにもまったく無縁の生活を送ってきた私がWTPを初めて知ったきっかけは、一冊の本を読んだことでした。読書好きの私に父が勧めたその本は、『ゆめのはいたつにん』。この本は、教来石さんが執筆されたノンフィクションエッセイです。この本を読み終わると、この活動を応援している自分、そして何よりどんな形でもいいからこの活動に携わりたいと思っている自分がありました。そこで見つけたのが、夏休み中の5日間のスタディツアー。私はこのツアーに参加することをすぐに決めました。

2)上映の感想 “映画は一生人の心に残るものになり得る”

自分の目で子どもたちの姿を見たことで、あらためて映画の力に気づかされました。子どもたちの食い入るように見つめる目、弾ける笑い声。私は今まで、あんなにも輝く笑顔を見たことがありませんでした。食べ物やワクチンなどの生きる上で必要な物資を提供することも大変意義のある支援だと思います。しかしそれ以上に、映画は一生人の心に残るものになり得るのです。物資の供給だけでは支援することが難しい、将来への夢や希望を抱くこと、新しい世界を見て視野を広げることが、映画の供給では可能になるのではないのでしょうか。あの子どもたちの真剣な眼差しと輝く笑顔を見たら、そう思わずにはいられませんでした。



3)カンボジアの印象の変化 “百聞は一見にしかず”

参加前、私はカンボジアについての知識はゼロに等しく、カンボジアはアフリカにある国だという勘違いさえしていました。途上国という強い先入観から、貧困、不衛生、治安が悪い、不便などのマイナスのイメージしか抱いていませんでした。

しかし、実際にカンボジアを訪れて抱いた印象は、思いもよらなかったプラスのイメージばかり。豊かな自然、子どもたちの輝く笑顔と元気、平和で穏やかな雰囲気、人々のあたたかい心など。「百聞は一見にしかず」とはまさにこのことだと思いました。これらは、私が見たカンボジアの一面であり、もちろん違う見方もあると思います。事実、カンボジアは、日本より衛生的ではない、治安はよくない、経済的にも豊かではありません。それでも、カンボジアで生きる人々は、日本で生きる人々にはない活気や希望が瞳に映っている気がしてならないのです。途上国=不幸という考え方は捨てた方がよい、戦争さえなければ、どの国もそれぞれの形で幸せな暮らしができるんだ、と気づかされました。

4)自身の変化 “一步を踏み出すこと、行動に移すこと”

スタディツアーに参加したことで、私自身を大きく変えることができました。スタディツアーの経験を話す機会をいただいたことで、沢山のひとと出会い、高校生の間にもう一度東南アジアへ行き、フィルとムーの上映を行いたいという夢ができました。人生を通して、世界をよりよくするための「何か」がしたいという強い気持ちも芽生えました。そんな私にできる「何か」を具体的にするために、外の世界に目を向けるようになり、行動の幅も広がりました。休日に講演会へ足を運ぶこと。気になったイベントに参加すること。家族や親戚、学校の先生以外の大人の方とお話すること。すべてが私にとって初めてのことで、こんなにも自分の知っていた世界は狭かったんだと痛感しました。小、中学校と部活一筋だった私が学校以外で積極的に行動をするなんて、参加前の自分は本当に想像もしなかったことです。

今、私の同年代へ、そして皆さんへ一番伝えたいことは、一步を踏み出すこと、行動に移すことが、自分を、そして世界を変える大きな力になるということです。



これからの世界は、今の子どもたちによって築き上げられます。だからこそ、これからも子どもたちに映画を届けて、子どもたちが将来へ希望や夢を持つきっかけをつくっていきたいと思います。カンボジアへ行ったことで、日本でも、そして世界中でも、子どもたちが笑顔でいられる社会を、次世代を担う私たちがつくっていかなくてはいけないと思いました。

■参加者 小林なつみさんのご両親の声

スタディツアー参加者の小林なつみさんのご両親に、小林さんのツアー前とツアー後の変化について、インタビューを行いました。

1)スタディツアーについて

本当に行かせて良かったと思っています。本人も夢がないというか、将来何がやりたいのかが全然決まっていなかった子だったので、その背中を押してあげられたのがすごく良かったです。



お父さま

2)行く前と行った後でお子様に変化はありましたか？

視野が広くなりましたね。留学したいと言っていたのが、今はその行先が変わってきたみたいです。以前はアメリカやイギリスといった先進国が良いと思っていたみたいですが、今は東南アジアを含めて、そういうところを視野に入れて自分で探しています。



お父さま

英語の勉強にも身が入るようになったみたいです。他の参加者で帰国子女の子たちと出会い、良い刺激をもらったようです。また、人前に出て発表するようなタイプではなかったのですが、帰国後に自分の体験を発表する機会をいただいて、一生懸命練習して、できるようになってきたみたいです。



お母さま

■帰国後の活動

▼同窓会

下記、3回の同窓会を実施しました。


- ①2017年春季ツアーの同窓会
 - ②ピースインツアー様が主催の他のツアー参加者との合同同窓会
 - ③2017年夏季ツアーの同窓会
- 旅の思い出話に花が咲き、温かいひと時となりました。



Filmeet (フィルミート) 事業



Filmeet



Filmeet

Filmeetとは、Film + Meetを意味し、新たな映画との出会いや映画を通じた人・場所・食・価値観との出会いを生み出すプラットフォームです。日本国内で映画に関連するイベントを定期的に開催し、そこで出た利益を途上国での映画配達事業に使用しています。2015年度から活動を開始して、2018年度で4年目を迎えます。「先進国の人々が映画を観たら、途上国の子どもも映画を観ることができる」そんな仕組みを目指しています。

■ Filmeetリーダー挨拶

こんにちは、Filmeetリーダーの金原です。いつも、みなさんにご支援いただき、本当にありがとうございます。Filmeetも2018年度で4年目を迎えますが、Filmeetのフェイスブックページに「いいね！」をしてくれる人が増えたり、映画コラムの読者が増えたり、着実にFilmeetは広がっていると感じています。日頃から応援してくれる人たちがいるおかげで、どんな状況でも活動を続けていくことができます。これからもどうぞ、よろしくお願いします！



World Theater Project
Filmeet 事業部リーダー 金原竜生(きんばら・たつき)

■ Filmeet 2017年度活動サマリー

▼2017年度実績(関東・関西・北陸 合計)

- 1) イベント数 : 14回
- 2) 映画コラム投稿 : 40記事
- 3) Filmeet フェイスブックページ : 600いいね！

▼2017年度振り返り

2017年度は、北陸支部が新しくでき、定期的に映画好きの人たちと集まる「映画遠足」というシリーズを展開しました。その企画を関西風にアレンジして、関西では「関西たのしねま」として実施しました。既に第4回を迎えており、定期的にイベントを開催する流れができてきました。2016年度はイベントの開催数が8回でしたが、2017年度は14回と前年度を上回ることもできました。2018年度の目標は、イベントの回数を増やすことはもとより、1回毎のイベントでより多くの人たちを巻き込んでいくことです！



■2017年度活動詳細 関東

本格チョコレート作り体験 映画『ショコラ』のスイーツを作って食べよう！

2017年5月27日(土)@東京・三軒茶屋

晴天に恵まれた日、三軒茶屋にある薄緑色の可愛いイベントスペース「ドードーの空」にて開催されたスイーツクッキングイベント

17年前の2000年5月28日は、チョコレートといえば、あの映画！『ショコラ』の公開日でした。それを記念に、このイベントが開催されました。

この日つくったスイーツは、映画に出てくるフェヌスブリュストヒェン(オーストリアの伝統チョコレート)とホットチリチョコレートです。みんなでワイワイと楽しんでくれました。最後にはお土産も持って帰っていただき、「映画をきっかけにしたイベントで、スムーズにお菓子もつくれて良かった！」という参加者の感想をいただくなど、映画好きの人たちにも大満足なイベントになりました。



■2017年度活動詳細 北陸

北陸版映画遠足 Vol.3 ~映画『スター・ウォーズ/最後のジェダイ』~

2017年12月15日(金)@石川・金沢

この日は、歴史的な映画の最新作公開日でした。そう、あの人気シリーズ『スター・ウォーズ』の最新作『最後のジェダイ』です。北陸Filmeetでは、映画好きコミュニティ「北陸シネマ倶楽部」を設立、定期的に映画を観に行く活動「映画遠足」を始め、スター・ウォーズ公開日のレイトショーを観に行きました。

この日は単に映画を観に行くだけでなく、ある参加者の方の発案で、レイトショー前の上映時間にコスプレをして、記念撮影時間を設けることになりました(開催にあたっては、イオンシネマ金沢フォーラス様にご許可いただきました)。

鑑賞者の方も最初は遠慮していましたが、上映時間間近になると、記念撮影を希望される方もいました。こうやって、徐々に映画好きの方が増えることを願っています。これからも北陸Filmeetは「映画遠足」を続けていきます。



■2017年度活動詳細 関西

〈CINEMA KATALO-GUE〉映画と、お酒と、時々、チャップリン。

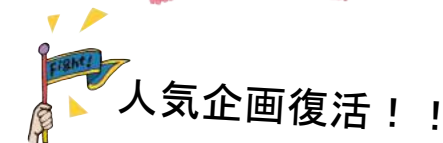
2017年4月15日(土)@大阪・長堀橋

春の陽気が漂う4月の夜に、大阪の隠れ家バー「Film Bar Wunder(フィルムバー ヴンダー)」にて、映画好き交流イベントを開催しました。実は、この隠れ家バーは「映画バー」なんです。

最近観た映画を参加者同士で語り合い、また、2015年公開の映画を題材に、映画を使ったゲーム〈CINEMA KATALO-GUE〉を行いました。4月16日は喜劇王のチャーリー・チャップリンが誕生した日。チャップリンにちなんだオリジナルメニューも用意され、映画好き同士でのアットホームな時間になりました。



★Filmeet 2018年度 ここをチェック！



2018年度は、あの人気企画「映画メシイベント」がパワーアップして帰ってきます。「映画メシイベント」は、映画に登場するご飯やスイーツを実際に再現した料理と一緒に作るイベントです。

今回は、スタジオジブリ作品に登場するご飯やスイーツを再現する「ジブリ飯」だけでなく、Filmeetでオリジナルに考案したレシピを使います。プロのケータリングユニット「Food Unit GOCHISO」様とのコラボで映画を完全再現した、オリジナルメニュー！ぜひご期待くださいませ♪

※北陸Filmeetがこの夏に開催を予定しています。
※メニューの詳細は、団体ホームページでご覧いただけます。



(Photo by katomaki)

『映画の妖精 フィルとムー』の製作

FILL and Moo

フィルとムーは、映画の妖精。フィルムの帽子をかぶった黄色い子がフィル。何にでも変身できる夢の種がモチーフの赤い子がムー。二人は世界中の子どもたちに映画を届けるために生まれました。世界中の子どもたちのために移動映画館を行うWorld Theater Projectのマスコットキャラクターであり、理念の象徴です。

私たちは、映画を届ける活動は“夢の種まき”だと考えています。映画は食料やワクチンのように生きるために絶対に必要なものではありませんが、心に栄養を与え、時に生きる目的を与えてくれるものです。

この世には星の数ほど映画がありますが、私たちが出会ってきた途上国の子どもたちの多くは、映画そのものを知りませんでした。そんな彼らから出てくる将来の夢の選択肢は、総じて少ないという現状があります。知らない夢を思い描くことはできません。

映画は世界への窓。映画を通じて、子どもたちは新たな世界を知りましょう。様々な国や職業、そして生き方が一つではないことを知りましょう。映画には子どもたちの可能性を広げる力があると信じています。

フィルとムーと一緒に、世界中の子どもたちに窓をつくりませんか？

フィルとムーオフィシャルサイトはこちらから
URL:<http://www.fillandmoo.co>



■クラウドファンディング企画によって誕生！

世界にはまだ映画を知らない子どもたちがいる

World Theater Projectとcinéma birdの齊藤工さんの企画により、世界中の子どもたちに届けるクリエイティブアニメ『映画の妖精 フィルとムー』を製作するプロジェクトを実施しました。

【声の出演：齊藤工・板谷由夏】
世界の子供達へ届けるクリエイティブアニメ『映画の妖精 フィルとムー』製作の仲間になりませんか？

📍 その他・海外 映画

コレクター
526人

現在までに集まった金額
9,841,922円

残り日数
0日

FUNDED

このプロジェクトは、目標金額4,800,000円を達成し、2017年10月31日23:59に終了しました。

シェア ツイート サイトに埋め込み

World Theater Project PRESENTS NPO法人World Theater Project プロフィールを表示

世界にはまだ映画を知らない子どもたちがいる——
World Theater Projectとcinéma birdの齊藤工さん企画。世界中の子ども達に届けるクリエイティブアニメ映画の妖精「フィルとムー」を制作するプロジェクト。

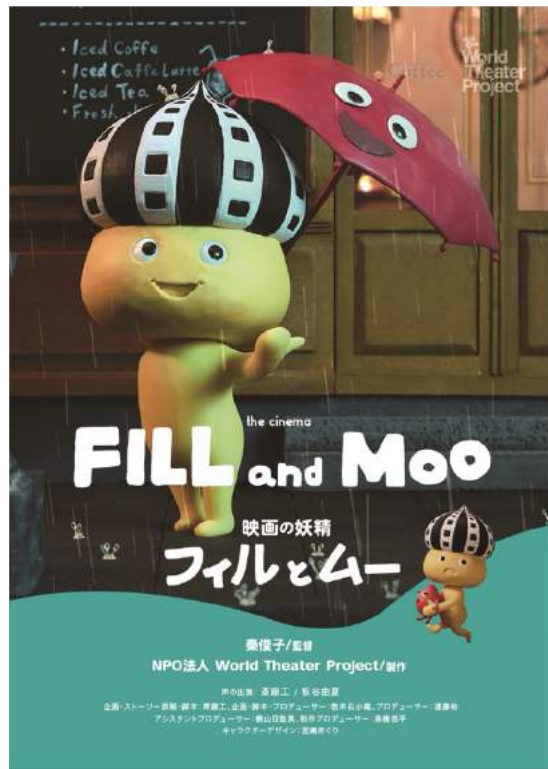
▼『映画の妖精 フィルとムー』がつくられた背景

途上国での移動映画館を広げたいと思った時、映画の権利の壁にぶつかりました。映画を守るために権利は絶対に必要なものですが、食料やワクチンのように、足りない地域には無償で届けられる映画があっても良いのではと思いました。まずは一本、どこの国でも上映できる映画があれば、多くの子どもたちに映画を届けることができます。理念に共感してくださった秦俊子監督率いる素晴らしいスタッフの皆様が制作に臨まれ、WOWOW「映画工房」のご協力のもと、クラウドファンディングで制作費を募り、多くの方の力と想いが集まり完成した作品です。



『映画の妖精 フィルとムー』作品について

クレイアニメ『映画の妖精 フィルとムー』



上映時間:8分
公開:2017年10月(日本)
言語:なし

制作スタッフ

声の出演:斎藤工、板谷由夏
監督/脚本/編集:秦俊子
企画/ストーリー原案/脚本:齊藤工
企画/脚本/プロデューサー:教来石小織
プロデューサー:遠藤裕
アシスタントプロデューサー:横山日登美
制作プロデューサー:高橋悠平
キャラクターデザイン:宮崎あぐり
音楽:根木マリサ、音響:滝野ますみ、ミキサー:宇津木鉦一
MA技師:曾田玲衣奈、レコーディングエンジニア:沼田彰彦、齋藤愛子
撮影/照明/カラリスト:手嶋悠貴、撮影/照明:山本大輔、撮影:高橋弘
照明:石金真人、造形:宮島由布子、池田恵二、三谷瞳、村田珠美
造形/アニメート/デジタルワークス:阿部靖子
造形/デジタルワークス:面高さやか、造形/アニメート:近藤翔
デジタルワークス:森下裕介、中村匠吾、山田優子、そんよんそん
2Dワークス:佐藤美代、撮影用特機:川村徹雄
タイトルデザイン:武藤弘明、ビデオコンテ協力:こがやっつけ

撮影スタジオ:ヒロアニメーションスタンド
ポストプロダクションスタジオ:Tripod Ltd, Liability Co.
制作:アングル合同会社
協力:WOWOW「映画工房」、cinema bird
製作:NPO法人World Theater Project

『映画の妖精 フィルとムー』制作スタッフ

秦監督率いるプロの制作陣の皆様が、世界の子どもたちにとどけるクレイアニメ『映画の妖精 フィルとムー』を制作してくださいました。



▼秦俊子監督プロフィール

1985年福岡県生まれ。2009年東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻卒業後、2011年東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。プチョン国際ファンタスティック映画祭、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭など数々の映画祭で賞を獲得。ショートショートフィルムフェスティバル&アジア2017で、『パカリアン』が話題賞を受賞。

『映画の妖精 フィルとムー』のいままでとこれから

▼上映された国

個人・団体様のご協力で様々な国の子どもたちに上映していただくことができました。

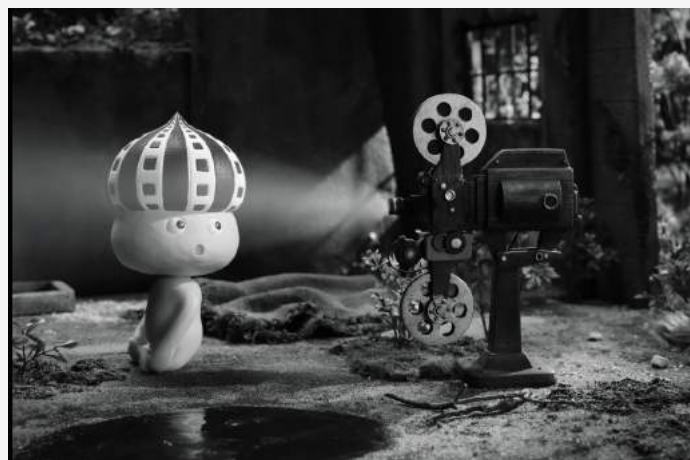
日本、カンボジア (World Theater Project)
マダガスカル (Zova an KIDS・郡山文様)
バングラデシュ (Choto Bela works・原田夏美様)
ウガンダ (cinema stars・桜木奈央子様)
ミャンマー、ベトナム (NPO法人JUNKO Association様)
ネパール (ちょんまげ隊様、Binod Aryal様)

※2018年度に上映された地域や映画祭も含めております。

▼映画祭での上映

各国の映画祭でも上映されております。

第30回東京国際映画祭 (ワールドプレミア)
ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2018
New York International Children's Film Festival
第12回フラットパック映画祭 (イギリス)
第4回ヒル映画祭 (バングラデシュ)
第34回ロサンゼルス・アジア・パシフィック映画祭 (アメリカ)
第44回シアトル国際映画祭 (アメリカ)
ショートショート フィルムフェスティバル&アジア 2018 (日本、6月4日~24日)



▼あらすじ
廃墟でひとりぼっちで暮らしているフィル。その表情はどこか寂しげである。そんなフィルの前に突然映写機が現れ、カタカタと鳴るフィルムロールの音とともに古いフィルム映像が映し出される。突如現れたムーによってスクリーンのなかに誘われるフィル。フィルとムーの旅が始まる。世界の子どもたちのためにつくられた短編クレイアニメーション。

▼解説

経済的、地域的に映画を観られる環境にいない世界中の子どもたちのために作られた作品。これが初めての映画体験となるかもしれない。たくさんの子どもたちが観ることになる本作は、映画の魅力そのものが伝わる作品になっています。映画の中で冒険する楽しさ、観終わった後の喪失感、そして希望。映画が終わればいつもと変わらない日常に戻るけれど、自分の中で何かが少しだけ変わっているあの感覚。映画の父・リュミエール兄弟の『ラ・シユタ駅への列車の到着』や『ローマの休日』など、過去の名作のオマージュが散りばめられ、大人たちも楽しめる作品になっています。「映画にはいつか人間を戦争から救う、人間を平和に導く美しさがある」とおっしゃっていた故・黒澤明監督、映画の妖精フィルには、その言葉を体現するような秘密の力があります。何にでも変身できるムーのモチーフは夢の種。「映画は夢の種まき」というWorld Theater Projectのミッションを表した作品にもなっています。

▼オリジナルグッズ



“Buy One, Give One Cinema (商品を買くと、一人の子どもに映画が届く)”をコンセプトに、フィルとムーがギフトアイテムになりました。フィルとムーの公式オンラインショップで販売中です。商品をご購入いただいて得た利益は、子どもたちに映画を届ける活動に使わせていただきます。不定期で1アイテムを期間限定で販売しております。



▼2018年度のフィルとムー

2018年度は様々な途上国でフィルとムーの作品を上映することがすでに決定しております。フィルとムーの作品を通じて、一人でも多くの子どもたちが映画に興味を持ち、夢を持ってもらえるよう願っております。より活動を拡大するために、途上国だけではなく、日本国内でも活動を広げていきたいと考えております。

日本国内においては、知名度向上や資金獲得のために、様々な企業様とのコラボや、映画祭での上映を行っていく予定です。今後ともフィルとムーを温かく見守っていただけますと幸いです。



World Theater Project Youthの活動

World Theater Project Youthの概要

World Theater Project Youth(以下、Youth)は、学生たちが主体的に行動することにより、WTPの輪を広げ、組織と個人の成長を目指しています。2017年春に発足し、約70名の多種多様な大学生、高校生たちによって構成されています。現在は、主な活動拠点である東京以外にも、関西と九州でメンバーが活躍しています。学生ならではの視点とコミュニティをいかして、イベントやSNSでの発信などを行なっています。



2017年度の活動実績

▼2017年度振り返り

4月の立ち上げから、まずはメンバーを増やすためにチラシ配布やSNSアカウントの開設をメインに活動してきました。夏休み期間にはYouth初のイベントを開催、9月には国内最大級の国際協力イベントであるグローバルフェスタにYouth主体で出店することができました。

2017年度後半からは、個々人がより活動に参加できるようにするために、学校や地区ごとに分けて複数の支部を創設しました。2018年度はさらに支部の数を増やしていき、全国各地の大学・高校でYouthメンバーが活動できるような環境を整えていきたいと思っています。また、支部ごとに個性をいかした活動を定期的にも実施することも目標としています。

▼2017年度 活動足跡

- 4月 Youth立ち上げ
- 6月 都内の映画館にYouthチラシ配布
- 8月 第1回映画上映イベント開催
- 9月 グローバルフェスタJAPAN2017出店
- 12月 神戸大学、都立国際高校支部 発足
- 1月 ICU、高校生東京支部 発足

メンバーの声

▼ 薬師寺沙彩(やくしじ・さあや) 神戸大学/新3年



スタディツアーに参加した際の写真

Q1. メンバー参加の理由

大学1年生から学生NPO団体に所属し、社会課題や国際協力と身近な日々を過ごしていました。大好きな映画で何か社会に貢献できないかと考えていた時、WTPの存在を知り、迷わず参加を決めました。

Q2. Youth活動体験談

私はYouthの神戸大学支部を立ち上げました。現在私も含め4名で活動しています。主な活動内容は、映画製作、イベント企画、SNS運営です。それぞれ担当を決めて活動を進めています。およそ週1回の頻度でミーティングを開き、進捗を共有し、課題を話し合います。

Q3. 今後の目標

神戸大学公認の団体にすることです。承認されるためにも、活動の成果と持続性を追求したいと思っています。

▼ 園山砂里亜(そのやま・さりあ) 都立国際高校/新2年

Q1. メンバー参加の理由

とても大好きで憧れていた高校の先輩がこの活動をしていて、その先輩が何をしているのかが気になり、入りました。また、高校3年間にできるだけいろんな事を経験したかったので、ピッタリだと思いました。

Q2. Youth活動体験談

Youthの活動において最も大変だったのは、人集めです。メンバーは高校生や大学生などの若い人で構成されています。そのため課外活動が活発で、新しい風が吹くペースも早いです。だから、興味を持ってもらい、そしてその興味を持続させる事が難しかったです。イベントを開催する際にどのようにしたら人が集まってくれるのか、とても悩みました。活動に参加するメンバーの意欲にも波があり、自身も含めて、モチベーション維持が課題です。

Q3. 今後の目標

私の通う都立国際高校を支部として活発化させることが目標です。



写真右が園山。左は同じ高校に通うYouthメンバーの山田あかり



TOKYO



KANSAI



HOKURIKU

関西支部

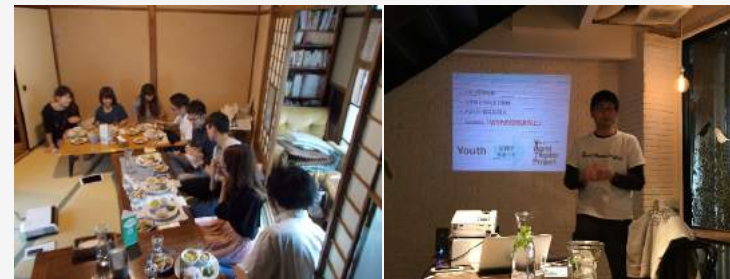


国内最初の支部として、国内活動拡大のために2016年に発足した関西支部。大阪を中心とした関西地区での団体紹介イベントや映画に関するイベント(Filmeet)を開催しています。

関西支部は、大阪、京都、兵庫からメンバーが集まって活動しています。学生から社会人まで様々な年齢層、バックグラウンドを持つメンバーで構成されており、ミーティングなども和気あいあいとした雰囲気楽しんで活動しています。

■ 関西支部の活動足跡

- 2017年4月 Filmeetイベント開催
- 2017年5月 団体紹介イベント開催
- 2017年8月 Filmeetイベント開催
- 2017年9月 Filmeetイベント開催
- 2018年1月 関西支部 新年会 兼 2017年活動報告会
- 2018年2月 Filmeet新規企画「関西たのしねま」開催
- 2018年3月 Filmeetイベント「関西たのしねま Vol.2」開催



■ 関西支部のミッション

- 関西地区でのWorld Theater Project 知名度向上
- 国内映画イベント事業「Filmeet」の実施
- 関西地区での映画好き人口増加

■ 関西支部のいままでとこれから

▼ 2017年度の振り返り

2017年度は私たちにとって転機となる一年でした。設立当初からいた学生メンバーが団体を卒業したり、活動に参加していた一部の社会人プロボノメンバーの本業が忙しくなり、活動にあまり参加できなくなったりと、プロボノや学生メンバーで構成されるNPO活動の現実に直面し、思うように活動できないときがありました。それでも、LINE@やTwitterを使つての情報発信や今までイベントに参加していただいた方への直接の呼びかけなどをして、徐々にイベントのリピーターも増えてきました。今後も規模にとらわれず、活動を続けていきたいと思ひます。

▼ 2018年度の目標

2018年度は、昨年度から始めた、「関西たのしねま」を定着させ、参加者を増やしていきます。また、半期に一回のペースで活動報告会を開催し、しっかりと関西地区でもWorld Theater Projectの知名度を上げていきたいと思ひます。

関西支部 代表 金原竜生(きんばら・たつき)
副代表 薬師寺沙彩(やくしじ・さあや)

北陸支部



「東京や大阪などの都市圏だけでなく、地方都市へも拡大を」

World Theater Project は、さらに国内活動を拡大して、認知度を上げるために、北陸支部を発足させました。石川県金沢市を中心に、活動紹介イベントや映画に関するイベント(Filmeet)、映画上映会を行っています。

メンバー:1名(応援団:2名)

■北陸支部の活動足跡

- 2017年4月 北陸支部発足(1名でのスタート)
- 2017年5月 金沢市『協働をすすめる市民団体』に認定
- 2017年6月 団体紹介イベント開催
「<<映画で夢を届けよう>>
映画だからこそできる国際協力とは？」
- 2017年7月 映画コミュニティ「北陸シネマ倶楽部」設立
Filmeet イベント「北陸版映画遠足」開始
- 2017年9月 「北陸版映画遠足 Vol.2」開催
- 2017年11月 Filmeet イベント開催
「2時間でわかる『スター・ウォーズ』！
～エピソード8公開直前！トークイベント」
- 2017年12月 新規事業「映画上映会～金澤町家シネマ～」開始
「北陸版映画遠足 Vol.3」開催
- 2018年1月 「北陸版映画遠足 Vol.4」開催
「金澤町家シネマ」開催
- 2018年2月 「北陸版映画遠足 Vol.5」開催
- 2018年3月 「金澤町家シネマ」合計2回開催
「北陸版映画遠足 Vol.6」開催



■活動実績

イベント実績:12回/初年度累計イベント参加者数:94人

■メディア掲載実績

【新聞】北國新聞、北陸中日新聞、毎日新聞、金沢経済新聞、中国新聞、高知新聞
【テレビ】MRO北陸放送/ニュース『レオスタ』



北國新聞 2017年5月22日付 無断転載不可



北陸中日新聞 2017年6月1日付 無断転載不可



北陸中日新聞 2017年12月8日付 無断転載不可

■北陸支部代表挨拶

はじめまして、World Theater Project北陸支部代表の金原です。
2017年4月に、石川県金沢市をメインの活動拠点とする北陸支部を設立しました。3月までは関西支部に所属していましたが、僕個人の転職をきっかけに、今まで住んでいた京都を離れ、石川県金沢市にやってきました。
大学時代に住んでいた金沢ですが、あらためて社会人になってから住み始めると、また違った見方ができます。今までは「映画」を通して石川県を見ていなかったのですが、この団体の活動を北陸でする際に「映画」観点で調べてみると、意外な事実が分かりました。実は、石川県は「日本で一番映画の機会に恵まれた県」なのです。というのも、人口に対して、映画館のスクリーン数や座席数が全国で一番多いのです。一方で、映画の格差もこの石川県では存在します。石川県は、金沢市などの主要市町村を含む南部地域を「加賀地方」、能登半島の自然に恵まれた北部地域を「能登地方」に分けられます。石川県内の映画館はすべて加賀地方に一極集中しており、能登地方には映画館が存在しません。統計上「日本で一番映画の機会に恵まれた県」なのに、格差が存在するのです。



北陸支部代表
金原竜生(きんばら・たつき)

World Theater Projectは「すべての子どもたちに映画体験を」を理念にしています。途上国だけでなく、北陸支部の活動を通して能登地方の子どもたちにも映画を届けたい。それが北陸支部の地域ミッションです。途上国・日本の地方、どちらの子どもにも映画を届けていくために活動を続けていきたいと思えます。

■2017年度の振り返り

▼古民家映画上映「金澤町家シネマ」

金沢市の中心街にある大正時代の古民家を改装したスペースにて、毎月映画の上映をする「金澤町家シネマ」事業を始めました。「映画を観ると、途上国の子どもにも映画が届く」というコンセプトで行っており、徐々にリピーターの方が増えてきました。



▼活動報告会/映画遠足

6月にはWorld Theater Projectの活動報告会を行い、11月には東京本部で人気を博した「スター・ウォーズトークイベント」を第一人者の河原一久氏を迎えて開催できました。また、定期的に映画を鑑賞する「映画遠足」も6回実施しました。



■2018年度の目標

以下の北陸支部のミッションに沿った活動を展開していきたいと思えます。

- World Theater Projectの知名度向上:
代表・教来石をゲストにした講演会&『映画の妖精 フィルとムー』上映
- 能登地方での映画の機会提供:珠洲市での映画上映
- 映画ファンの人口拡大:「映画メシ」イベントの開催/「映画遠足」の定着

他の団体や行政の方々と積極的にコラボレーションした企画を開催していきます。ご期待くださいませ！



企業・団体様とのコラボレーション事業

2017年度は、World Theater Project 単独での活動のみならず、企業・団体様とコラボレーションしての事業も実施させていただきました。

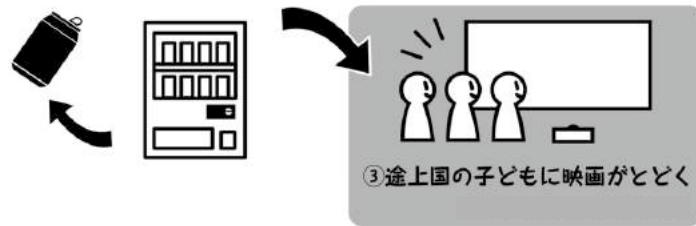
■ キリンビバレッジ株式会社 × World Theater Project

▼ ドリンクを購入すると途上国の子どもたちに映画が届く自動販売機が誕生！

キリンビバレッジ株式会社様と協働させていただき、ドリンクを購入すると売り上げの一部がWorld Theater Projectへの寄付となる自動販売機を制作いたしました。2017年5月に、東京キリンビバレッジサービスにお勤めの門平様より熱いメッセージとともに今回のお話をいただき、このプロジェクトが実現しました。これまでに合計3台の自動販売機を設置しています。設置にご協力いただきました皆様に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

▼ WTP支援自動販売機の仕組み

①ドリンクを買ったら ②一部が寄付になって



お問い合わせはこちらから

NPO法人 World Theater Project URL
mail : info@worldtheater-pj.net



第1号機 「げんきらいふクリニック」様

第2号機 特別養護老人施設「八潮いこいの里」様

第3号機 「ジャパンシステム株式会社」様

オリジナルデザインでのラッピングが可能です。オーナー様のご意向に沿って、外観をデザインすることができます。

▼ 東京キリンビバレッジサービス 自動販売機担当者様より

昨年夏前くらいでしょうか。World Theater Projectの活動を知ったのは…。初めて聞いた時、映画に力をもらった自分自身の子ども時代が思い出されました。「映画を観られない子どもたちがいるのか。何かできないか…。WTPに協力したい、そんな活動をしている団体の方々とお会いしてみたい」。そんな思いから直感的にWTPへメールにて想いを伝えてみたのが、この活動との関係の始まりでした。WTP支援機の企画を教来石代表にご提案して進め始めたのもその頃です。まだ日は浅いですが、心ある方々のご協力により、以下の3台を設置する事ができました。

- ・第1号機 「げんきらいふクリニック」様(東京都江戸川区)
- ・第2号機 特別養護老人施設「八潮いこいの里」様(埼玉県八潮市)
- ・第3号機 「ジャパンシステム株式会社」様(東京都渋谷区代々木)

そして多くのお客様にご利用いただき、飲料の売り上げの一部をWTPに寄付することで、途上国の子どもたちへ映画を届ける事ができております。この場を通して深くお礼申し上げます。

WTPは志を持った若い世代にも引き継がれ、頼もしいないつも感じております。もちろんですが、わたくしもWTPを今後も永続的に応援してまいりたいと強く思っております。最後に、WTP支援自動販売機の設置には、一切費用はかかりません。設置後のお手間もございません。お気軽にWTPスタッフにお声かけください。わたくし門平が誠心誠意を込めてご対応させていただきますのでよろしく願いいたします。

東京キリンビバレッジサービス
World Theater Project(ファンドレイジングチーム)
門平亮(かどひら・りょう)



■ JAMMIN × World Theater Project コラボグッズ

京都に籍を置くJAMMIN(ジャミン)様は、毎週様々なNPOと連携し、ファッションを通じて社会に貢献する「チャリティーファッションブランド」です。お客様に購入いただいたTシャツ金額のうち、1枚につき700円(販売価格の約20%)がチャリティーになる取り組みを行っています。Tシャツの販売を通じて、苦難に果敢に立ち向かうNPOを後押しし、さらに活躍できる社会を目指している素晴らしい会社です。今回2017年11月27日～1週間限定でコラボグッズを販売させていただき、トータル305アイテム、179,760円のチャリティーをいただきました。今回のプロジェクトで、1,797人の子どもたちに映画を届けることができました。1週間限定での販売でしたが、多くの方に手にしていただくことができ、WTPの輪が広まるのを感じました。このような機会を与えてくださったJAMMINの皆様、そしてご購入いただいた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。イベントへお越しの際はJAMMIN × WTPグッズを身に付けてご参加いただくと嬉しいです！



※移動映画館にかかる経費などを計算すると、100円で1人の子どもに映画を届けることができます。

▼ JAMMIN様制作のオリジナルデザイン

JAMMIN様がWorld Theater Projectをイメージして、グッズにプリントするデザインを制作してくださいました。



映写機から映し出されるのは、WTPが活動する発展途上国の町並み。子どもたちが暮らす小さな町から、映画をきっかけに新たなストーリーが始まる。



コラボTシャツを着用するWTPスタッフ(WTP感謝祭2017にて)

海外へのプロモーション活動

2017年度は、『映画の妖精 フィルとムー』の製作をきっかけに、カンボジアのみならず、各途上国にも移動映画館の活動が広がり始めた一年となりました。海外の方にも活動を知っていただくためのプロモーション活動を行いました。



▼海外向け情報発信プラットフォームの整備

『映画の妖精 フィルとムー』の英語版
オフィシャルサイト作成



▼海外地域とのコラボ実績

英語版活動紹介ムービー完成 『Movies Inspire Dreams』

弊団体の活動がNHKワールドで放映された際、番組を見てくださったRobert Shaw氏(イギリス人アニメーター)が団体紹介ムービーを制作してくださいました。



▼『映画の妖精 フィルとムー』の映画祭出品

秦俊子監督率いる制作スタッフの皆様のもと、多くの方のご支援で完成した『映画の妖精 フィルとムー』は、そのクオリティの高さから国内外にて高い評価をうけ、様々な映画祭で上映されています。

2017年度メディア掲載一覧

テレビ

WOWOW「映画工房」
MRO北陸放送/ニュース『レオスタ』 他

ラジオ

FMラジオ
『堀下兄弟のお姉さんは納豆にネギ入れるタイプ?』
FM OSAKA『hug+(はぐたす)』 他

WEB記事

Yahoo!ニュース!
ハナジョブ
シネマトウデイ
こども映画プラス
東京国際映画祭
ブリリア ショートショートシアター オンライン 他

雑誌

国際協力キャリアガイド 他

新聞

北國新聞
北陸中日新聞
毎日新聞
金沢経済新聞
中国新聞
高知新聞 他

ボランティア・プロボノメンバー募集

World Theater Projectの活動は、ボランティアスタッフや、デザイン制作や写真撮影、動画制作などプロボノとして技術協力して下さる皆様の力に支えられています。プロボノメンバーとして活動をサポートして下さる方を随時募集しております。

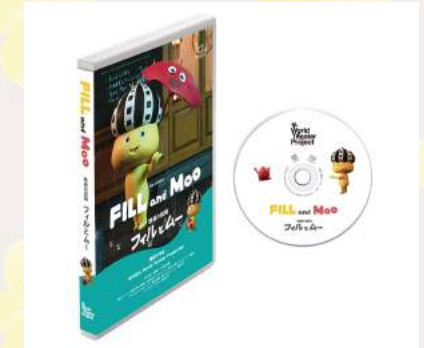
■デザイン制作 boum 武藤弘明(むとう・ひろあき)さん

『映画の妖精 フィルとムー』のタイトルロゴやDVDジャケットなど、様々なデザインを手がけてくださいました。

▼デザイン実績

『映画の妖精 フィルとムー』タイトルロゴ

『映画の妖精 フィルとムー』制作クラウドファンディング企画ご支援して下さった方へのリターンDVDジャケット



■写真撮影・動画制作 内田英恵(うちだ・はなえ)さん

本誌の表紙の写真撮影や、『映画の妖精 フィルとムー』のメイキング映像制作など、プロボノメンバーとして、World Theater Projectを支えてくださっています。

▼本誌の表紙の写真



『映画の妖精 フィルとムー』を観ながら、笑顔を浮かべる子どもたち

『映画の妖精 フィルとムー』の完成後、カンボジアの子どもたちに届けるために現地へ渡航し、その際に撮影して下さった一枚です。

ご協力いただいた企業・団体様

チャンネルオリジナル株式会社 / 株式会社ソーケン / 株式会社オーエス
 アサヒビール株式会社 / 株式会社ファンドクリエーション / 株式会社WinJob
 株式会社白組 / A-LEADS Japan株式会社 (Madori for Children) / 株式会社ジェイフィール
 株式会社学研ホールディングス / 株式会社東京現像所 / 株式会社トムス・エンタテインメント
 boum / キリンビバレッジ株式会社 / 株式会社大泉工場 / 株式会社サガミ
 株式会社ウィット / 株式会社バリュープレス / 有限会社海と月社 / 株式会社リコー
 株式会社新日本映画社 / アクシー株式会社 / 吉祥寺フランス語学院合同会社
 株式会社ザ・ネット / 一般社団法人 オープンイノベーション促進協議会 / 大江橋経営
 株式会社浩仁堂 / LTRコンサルティングパートナーズ / Sui-Joh
 パーミリオンインターナショナル株式会社 / LotusButterfly / 株式会社センジュ出版
 有限会社クローバー / げんきライフクリニック / 社会福祉法人きらめき会
 ジャパンシステム株式会社 / WOWOW「映画工房」 / テラサイクルジャパン合同会社
 パルシネマしんこうしえん (敬称略・順不同)

▼株式会社ソーケン様からのご支援

私たちの活動は、多くの皆様のご支援で成り立っております。
 株式会社ソーケン様はCSR事業として、イオンタウンなどで大道芸人やアーティストがパフォーマンスを行い、本来であれば出演者へのおひねりとなる収益をWorld Theater Projectへの寄付金としてご支援くださっています。



World Theater Projectでは
 月々300円から継続的にご支援いただける
 “ギフトシネマ会員”を募集しております。

もしあなたが、「もっとたくさん途上国の子どもたちに映画を届けたい」「World Theater Projectを今後も応援したい」と思ってくださったなら、ギフトシネマ会員になって、子どもたちに映画を贈りませんか？



お申し込みはこちらから

▼ギフトシネマ会員様からの応援メッセージ

中学生の時、映画館で家族と観たハリーポッター。そこに登場する主人公のハリーは、どんな苦しい場面でも勇気をもって立ち向かい、仲間や先生方に助けられながら魔法界を悪から救っていきます。「ハリーはこれからどうなっていくのだろう？」そう思った私は、日本語に翻訳された本を読み、さらには原作の英語版をわざわざイギリスから取り寄せて読むようになりました。毎日がつまらないうとふて腐れていた中学生の私は、この映画との出会いがきっかけで英語の勉強が楽しくなり、毎日にワクワクを感じるようになり、イギリス留学までしてしまいました。ハリーポッターの映画によって魔法にかかってしまった私。この経験から、映画には人生を変えてしまうくらいのパワーがあると思ってきました。



ギフトシネマ会員
 仲嶺都子さん
 (なかみね・みやこ)

2年前、WTPに出会い、「生まれ育った環境に関係なく、子どもたちが夢を持ち、人生を切り拓ける世界をつくる」というビジョンや、「すべての子どもたちに映画を届けたい」と語っていた代表の教来石さんに心から共感し、会員としてWTPに関わらせていただけることになりました。2017年は、WTPオフィシャルマスコット「フィルとムー」が主人公の『映画の妖精 フィルとムー』も完成し、世界中の子どもたちに映画を届けるという目標に大きく近づくことができました。また、フィルとムーのオフィシャルグッズ販売も開始され、より多くの方にWTPの活動を知っていただけるようになると思います。これからも、WTPの活動を応援し続けるとともに、一人でも多くの世界中の子どもたちに映画が届き、夢をかなえていけますように願っています。

▼ギフトシネマ会員の筑井康敏(つくい・やすとし)さんからのご支援



ウルトラマラソンやマラソンに挑戦され、1キロ走るごとに100円の寄付をくださっています。団体一同、筑井さんの走る姿に励まされております。いつもありがとうございます！

▼World Theater Projectより、年会員の皆様へのお知らせ(会員名変更)

皆様にはかねてより、「年会員」「マンスリー会員」という名称でご支援いただいております。このたび勝手ながら、2017年12月より「ギフトシネマ会員」に変更させていただきましたことをご報告させていただきます。皆様子どもたちに映画を贈ってくださっていることを、より強くイメージするために、このようにいたしました。呼び名が変わりましただけで、内容自体には変更はございません。いつも子どもたちに映画を贈ってくださり、本当にありがとうございます。

2017年度財務会計報告

2017年度 活動計算書

2017年 4月 1日から 2018年 3月 31日まで

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	108,000	
賛助会員受取会費	1,284,648	1,392,648
2 受取寄附金		
受取寄附金	12,861,632	12,861,632
3 受取助成金等		
受取補助金	0	0
4 事業収益		
イベント開催事業	25,244	
スタディツアー事業収益	40,000	
グッズ等販売事業	682,217	
非劇場上映事業	1,667,399	2,414,860
5 その他収益		
受取利息	19	
雑収	0	19
経常収益計		16,669,159
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費	0	
人件費計	0	
(2)その他経費		
現地上映費	884,043	
現地機材費	208,360	
現地交通費	121,550	
現地管理費	11,110	
業務委託費	638,189	
著作権使用料	221,400	
作品製作費	8,335,006	
イベント開催費	161,399	
非劇場上映開催費	1,220,040	
印刷製本費	112,306	
販促物制作費	845,680	
諸謝礼	100,000	
諸会費	73,008	
会議費	48,000	
郵送費	85,990	
支払手数料	50,955	
為替差損	79,937	
雑費	77,149	
その他経費計	13,274,122	
事業費計		13,274,122
2 管理費		
(1)人件費	0	
人件費計	0	
(2)その他経費		
印刷製本費	75,153	
消耗品事務備品費 ³	26,000	
旅費交通費	212,115	
その他経費計	313,268	
管理費計		313,268
経常費用計		13,587,390
当期経常増減額		3,081,769
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
当期正味財産増減額		3,081,769
前期繰越正味財産額		1,009,824
次期繰越正味財産額		4,091,593

2017年度 貸借対照表

2018年 3月 31日現在

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	4,091,593	
立替金	0	
流動資産合計		4,091,593
2 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		4,091,593
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	0	
預り金	0	
借入金	0	
流動負債合計		0
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	1,009,824	
当期正味財産増減額	3,081,769	
正味財産合計		4,091,593
負債及び正味財産合計		4,091,593

皆様からのご支援のおかげで、
多くの子どもたちに映画を届けることができました。

NPO法人 World Theater Projectより感謝の気持ちを込めまして



団体名 : NPO法人 World Theater Project

HP : <https://worldtheater-pj.net>

Email : info@worldtheter-pj.net

Twitter : @catic0901

Facebook : worldtheaterproject

Instagram : @world_theater_project

World Theater Project